



# 大野市教育委員会たより

令和元年11月5日発行 第33号

発行 大野市教育委員会教育総務課  
〒912-0086 大野市天神町 1-1  
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110  
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思っております。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：10月29日（火）午後7時～9時 場所：和泉小学校体育館  
対象者：和泉地区住民（出席者数22人）  
次第：教育長挨拶、1部 説明「大野市の教育について」、2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で地区住民の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※地区住民からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎教育長は情報公開をしていくと明言していたが、裁判（行政文書部分開示決定処分取消等請求事件（学校教育審議会の会議録開示））の判決文（H30.11.15福井地裁）を先月、原告から開示するように要求し、ようやくホームページで開示された。教育委員会職員の情報開示に問題があると思うがどうか。

先日、県の教育大綱が策定され、個性を重視する教育をしていくとしている。併せて、へき地教育についても、県教育振興基本計画に基づいて来年度から策定に入ると聞いている。それについて、県教育長は各市町の教育長と話を行うとしている。へき地教育について、どのように考えているか。

⇒■裁判の判決文の情報公開については、今後期待に沿えるように努めていきたい。意見交換会の意見などについても、どこの地区でどのような意見が出たかということも多くの方に分かっていたことを基本的なスタンスとして取り組んでいる。へき地教育については、市町教育長会議などで話をしていくことになると思う。県ではインターネットなどを利用した授業を行うことで、離れている学校でも十分な授業ができるのではないかと検討している。市でも、そのような方法の利用について検討していきたい。教育委員会としては、ある程度の人間関係の中での教育が必要と考えている。どのような形が子どもたちにとって良いのか、各地区で意見を聞きながら考えていきたい。

◎和泉の教育環境に対して自信をもっている。和泉の各地区では空き家を利用して、地区外から人を呼び込んでいる。定住された人には、「こういう地域だから、こういう教育環境だから移住した」という理由の人もいる。

市街の学校に再編となった場合、家から学校までの通学が片道1時間は掛かる。小学校1年生が毎日通うのは、体力的に無理ではないかと判断している。

1番の問題は地域が元気でなければならない。そこに住む人や子どもも元気でなければならない。1つでも無くなったら地域は衰退する。よって、この地域に学校は絶対残すべきだ。

⇒■和泉の小中学校や保育園の保護者からも、空き家に住み、この地域や学校での子育てがしやすいと聞いている。

⇒◎思いっきり特色ある学校づくりを行い、地域の目玉にするのも1つの方法だと思う。特認校や山村留学制度など、いろいろな方法はある。この地域にしかない学校づくりを考えていくべきである。

⇒■先般、和泉小中学生が利用しているバスに乗せてもらい、通学を体感した。意見交換会での保護者の一番の心配は、通学の距離や時間である。

⇒◎中部縦貫自動車道が開通すれば、インター間は20分でいけるかもしれないが、インターに乗るまでの時間やインターを下りてからの時間も必要である。また、冬道による危険性もある。

⇒■登下校については、慎重に考えていかないといけない。

◎和泉の学校にいた先生の和泉の教育環境に対する意見を聞きたい。

⇒■自然がいっぱいの中で、子どもたちと1対1で学習をした。地域の方とのつながりもたくさんあり、自分も教職員として育ててもらった。和泉村の時に、中竜鉱山が閉山となり、朝日中と大納中が統合し、中学校が1校となった際は、それまで実施していた小中学校合同の陸上記録会がなくなった。そのため、小学生の陸上の力を維持していくために、大野市連合体育大会への参加の働きかけをした。このように、へき地の学校としては、市街の学校との交流を行うなど、小規模校の教育では足りない何かを補っていかなければならない。

和泉小学校を特認校として広く募集をかけたとしても、児童はなかなか集まらないと思う。教育委員会と地域の方が一緒に働きかけを行い、連携しながらこの良さを出していかないといけない。

⇒■和泉中に5年間、赴任していた。ここで育った子どもたちの人間性やあったかさを感じ、この地区の素晴らしさは間違いないと思っている。今、いろいろな学校の授業を見て感じることは、子ども同士の学びを大事にしたいということである。将来、子どもがいろいろな職業に就きたいと思った時、人と話をして計画を練り上げ、実践していくことが求められてくると思う。現在の和泉小中学校の教職員は頑張っており、子どもを1人1人見守ることが出来ている。子ども同士については、今よりもう少し人数（10人ぐらい）がいれば大分違うと一番感じている。ある程度の人数がいて、このあったかい地域で教育ができたらと思っている。現状の子ども的人数を見ていると不安である。

◎子どもの数が減るといことは地域にも寂しいが、大野市にとっても不安な要素である。大分県豊後高田市のような子育て施策を展開し、1人や2人にならないよう施策を行うことが大事である。

子どもの数が少ないため、専門教科の先生が配置できないのは分かるが、ALTのように市で雇用して配置する施策が必要である。

今、市の教職員は何人いるか。再編することで、教職員1人に対する子どもの数が多くなり、負担になる。子どもに接する時間も減るので教職員の数は大事である。

義務教育は、基礎・基本を学ぶ場である。子どもが教職員とどれだけ密接に関わるかであり、少人数教育は非常に大事な教育環境である。

⇒■市では、子どもが生まれた方への商品券や高校を卒業し市内に就職された方への奨励金など、これまで子育て施策に取り組んできた。今、令和2年度に向けて、子育て世帯を応援する施策を検討している。また、IターンやJターンなど大野への移住の呼び込みにも取り組んでいるが、市外を出られる人数が市内へ入られる人数より多くなっている。もっと効果的な策を行っていくことについて、市の部局全体で考えているところである。

⇒◎豊後高田市では、市が主催で無料塾も行っている。

⇒◎全国に、このような取組みを行っているところがある。大野も思いきった施策をしないと大野の魅力は伝わらないし、人は来ない。

⇒■教職員数は、小中学校合わせて218人である。実際に教壇に立っている教職員は157人である。市内には和泉小以外にも複式学級の学校があり、市や県の講師を配置している。また、へき地複式のやり方の研究会が奥越・県・東海北陸・全国とそれぞれにあり、教職員が参加し、複式の授業のやり方を学んでいる。

◎学校で子どもたちに自信を持たせることは大事である。福井駅で和泉中の生徒がある人から「どこから来たのか」と聞かれたとき、大きい声で「和泉から来た」とはっきり答えたのを聞いて嬉しかった。教職員だけでなく、地域の方が協力して学校とともにいろいろな取組みをしてきたからだと思う。今、若い人は働く場所がないから帰って来れない。

保護者が通学について心配であるのは当然である。中部縦貫自動車道を利用すれば15分で通えるというが、実際にバスを走らせてみないと立証できない。自動車道が完成した後、実際に走らせてから再編の協議をしてもらいたい。市民一体となって再編を考えていかないと駄目である。

⇒■登下校については、意見交換会のどの場所でも一番心配されていることであり、慎重に考えていきたい。

⇒◎実際に出来てから、立証できれば安心感がある。ここを残すということより、ここから安心して通うということが大事である。

◎現在の和泉小中学校の先生は、とても一生懸命やっている。先般、和泉小では上庄小と合同運動会をやり、そこで子どもが1番を取り、誇らしげに帰ってきた。とてもものびのびと育っている。他の学校と交流する方法はいろいろあると思う。

⇒◎先日、子どもが上庄小で一日交流学習をしてきた。大勢の中で楽しく過ごし、また会えることを楽しみにしている。これからこまめに交流していけば、再編した時、スムーズに入っていけると思うので、他の学校との交流をいっぱいして欲しい。

⇒■いろいろな世界を知ることは大事だと思うので、交流はどんどん進めたい。

◎子どもが和泉中の時、尚徳中で授業を受け、他の子どものいろいろな考え方を学んできた。和泉の教育環境は良いが、子どもはいろいろな人と出会っていきたいと思っている。以前、中学生の子どもが学校再編について、一番大変なのは体力のない小学校の子どもであると言っていた。

⇒■現在子どもがいる保護者の方も、この学校で育てたいと思う一方、もう少し早くいろいろな世界を見せたいという気持ちもあると思う。



◎学校再編について、普段子どもを見ている先生はどのように考えているか。

⇒■教職員との意見交換会は、夏休み中に行った。学校再編に対する意見は多種多様で、まとめきれないのが現状である。現在、校長会で各小中学校の教職員にアンケートを取り、その結果を基に、校長会と教育委員会で意見交換会を来年1月に行う計画をしている。

◎子どもが心配していることは、いじめとからかいである。特に小学校高学年と中学生が一番心配している。大野市では親の虐待の事案があるか。

⇒■事案はある。市長部局の担当課と教育委員会が連携しながら対応をしているところである。教育委員会ではスクールソーシャルワーカーの家庭訪問などを通して、見守っている。

⇒■いじめは一番心配していることである。いじめは実際に分かりにくいのが現状である。SNSやLINE(ライン)などのいじめもあり、非常に悩ましい。周りの大人がしっかり気を張っていかなければいけない。今の学校は、昔と比べて教職員と子どもの距離が近くなっていると感じている。

◎再編計画の見直し(案)がまとまり次第、この意見交換会のように説明会を行うと説明されたが、見直し(案)はいくつかの案を示すのか。また、見直し(案)がまとまる前の段階で、市民が意見を言うことは出来るのか。

⇒■検討にあまり時間をかけるのは良くないと思っている。素案を作成し、意見を聞く場は必要と考えているが、現在検討スケジュールなどは決まっていない。

⇒◎再編について、こういう形、方法があるんだと説明してもらった方が判断できると思う。

⇒■丁寧に進めていきたいと考えている。

⇒◎学校教育審議会で議論をするのか。

⇒■見直し(案)を検討するための組織は必要と考えている。

◎平成28年度の再編計画(案)に対するパブリックコメントで、和泉に移住された方が「和泉の子どもたちに出会って非常に衝撃と感動を受けた。和泉の子は生き活きと子どもらしく、素晴らしい。助け合って個性が光っている。」とコメントしていた。地域と家庭、学校の連携がうまくいっているからだと思っている。再編では、特色ある学校を市内に1校作ってはどうかと思う。和泉小は子どもの力を伸ばす環境が揃っている。校舎も新しい。

⇒◎和泉はあまり良くないイメージがある。地域に人が来てもらえない。

⇒■中部縦貫自動車道が出来れば、イメージは変わると思う。

⇒■市街も同じような問題がある。有効求人倍率は1.9倍あるが、希望する職種や給料ではないため、市外へ働きに出てしまう状況である。企業誘致に取り組んでいるが、企業からは大野で雇用を確保できるかと聞かれ

る。

⇒◎地域おこし協力隊などの制度を使って、市へ人を呼び込んでどうか。

⇒■活用をしていきたいが、どの自治体もこの制度に取り組み始めている。

⇒◎和泉に2人が定住している。こういう人がどんどん入ってくれば違った力が発揮される。

◎いじめは教育委員会が抑え、保護者がおおやけにしないと分からないイメージがある。教師間でもいじめがあるが、どう思っているか。

⇒■教師間のいじめがあったことは、ショックを感じた。もちろん互いに意見の対立などはある。

⇒■市内で1学年2学級ある小学校は3校で、その他は1学級や複式学級である。そのような中で、教職員同士でいじめをしている状況があったら、学校の教育は保たれない。教職員同士の同僚性を高め、お互いの技術を公表しながら、お互いの学習指導に生かしていこうとお願いしている。これまでは1つの学校で行っていた研究は、その学校だけのものであった。今は、いろいろな学校が他の学校の良い所を取り入れながら、教育を行っている。

いじめについては、現在、ちょっとしたいじめ(悪口やからかい)でもしっかり見ていくこととし、教育委員会に報告してもらっている。いじめの解消は、いじめがなくなってから3ヶ月間様子を見て、その後、被害を受けた子どもや保護者などから大丈夫であると確認をとるまでの期間を要している。

◎児童生徒のより良い教育環境を目指して学校再編を謳っていると思うが、本当は現在の学校数を維持していくのに経費が掛かりすぎるとい理由があるのではないか。

⇒■大野市の予算は、税金やその他収入でまかなえるのが約3割で、その他は国の地方交付税や補助金、県の補助金などでまかなっている。今後、人口が減少する中、国の地方交付税などがどれくらい市へ入ってくるのか分からない状況である。よって、市の予算規模がどうなるのか予想できないが、大きく増えることはなく、現状維持か少しづつ下がっていくと考える。教育委員会としては、全体の予算規模が小さくなったとしても、教育費10%の割合は確保していきたいと思っている。教育費の予算を縮小するために学校再編を進めている訳ではない。しかし、この先10年、20年、この学校数を維持し続けていくことは厳しいと考えている。教育については、1学年に1人、2人という学校が子どものために本当に、より良い教育環境なのかということを考えているところである。

⇒◎校区は簡単に見直しができるのか。

⇒■校区を審議する組織がある。

⇒◎学校を維持するために、子どもの数が均等になるように校区を見直すことは可能か。

⇒■可能性はあるが、現在の校区にはこれまでの歴史や経緯があり、人数調整のためだけの(部分的な)校区変更は難しいかもしれない。

◎以前、子どもが友だちを好きで関わっていたのに、先生に呼び出されてしまい、それ以来、対人恐怖症となった。先生はよく状況を把握し、いじめの判断や指導をして欲しい。

⇒■いじめの背景をしっかりと見極めていく必要があるので、学校と一緒に考えていきたい。

◎クラブ活動に必要な道具などを購入する学校への予算は、どのような配分になっているのか。

⇒■学級数や児童生徒数の規模に応じて学校への予算額を決めて、配当している。

⇒◎以前、和泉中学校が生徒数が少ないから、予算が少なく、スキー部や剣道部の道具を買えないと言っていた。そこで、空き缶などの資源回収による資金で道具を買った。小さい学校への予算の配慮をお願いしたい。

◎学校教育への要望に、学校で集金するお金が高いというアンケート結果がある。教材費や部活費、修学旅行費など年間を通すと相当なお金になる。市は無償に近づけていく努力が求められる。

お仕事等で忙しい中、ご出席いただきました各地区の区長様及び地区住民の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。

